



東京を守る堤防を守ろう体験ツアー

江東区の水辺に親しむ会 奈良 朋彦

日本一広い関東平野。平野には、周りを囲む山々から発した利根川や渡良瀬川、鬼怒川などの大きな河川が入り乱れるように流れ込んでいて、最下流部の江東区は関東平野の各地で行われてきた治水の活動成果の恩恵を受ける地です。江東区民として、平野の中央部でどんな治水が行われてきているかを知ることが、江東区がどう水害から守られているかを知ることでもあり、とても大事なことです。ツアーは、水系でつながる小山市の渡良瀬遊水池での地元住民による堤防維持活動を知り、昭和22年の決壊現場である大利根町の利根川堤防の行政による強化事業と維持活動を学びます。



谷中村遺跡(写真奈良)

今年は東日本大震災の影響で、小山市の地元住民との交流会は中止となりました。さらに、この日の11時ごろに茨城県南部を震源とする震度5弱の余震が発生し、案内してくれる予定だった維持管理業者が堤防の緊急点検のためにお会いできませんでしたが、本なら土曜日で休業だった権現堂川を管理する埼玉県職員が駐留しており、権現堂川の説明をしていただけになりました。

今回のツアーは、東日本大震災の影響を受けて、いつもとは違う行程になり、さらに予定外のことがたくさん起きましたが、治水施設を守る行政や業者の方々のきちんとした対応を目の当たりに知ることができ、こうした方々の陰の努力で江東区は水害から守られている、ということを学ぶことができました。

お知らせ

■活動ブログ <http://mizubeland.blog10.fc2.com/>

江東区の水辺に親しむ会の活動の一部をブログに投稿しています。ぜひご覧ください。

6/22更新 桜チャリティークルーズ…4月10日、東日本大震災の被災者支援の桜チャリティークルーズを行いました。

6/22更新 豊洲運河に 船カフェ オープン…豊洲地区運河ルネッサンス協議会の主催で船カフェがオープンしました。

■水彩サロン2011 秋学期「江東デルタ」の安全・安心は、先ず、足元を知ることから!

◇1回目 9月18日(日) 14:00~16:00「東京低地の地質・地盤の特徴と地盤沈下」
前東京都土木技術センター地質担当職員：中山俊雄さん

◇2回目 11月13日(日) 14:00~16:00「東京湾防潮堤」
東京都港湾局 港湾整備部 計画課 課長補佐 小久保学さん
※講師は都合により変更になる場合があります

◇3回目 11月20日(日) 10:00~12:00「船で江東デルタを一巡」(荒天中止)
NPO法人江東区の水辺に親しむ会 今井寛隆さん
コース：勝間橋⇒隅田川⇒荒川⇒東京湾⇒勝間橋※コースは変更になる場合があります



会場：森下文化センター (1回目：第1会議室、2回目：第2研修室<24名> 3回目：勝間橋西詰広場に10時集合<定員：30名>)
参加費：1、2回目 各1000円(資料代込)、3回目見学会(乗船代)3000円
申込み：【直接窓口または電話】森下文化センターTel. 03-5600-8666 【e-mail】江東区の水辺に親しむ会 mizube@talo-city.co.jp

みずべ Mizube Vol.25



第10回 明治丸シンポジウム報告

山本一力さんの基調講演(写真飯田)

本会が共催する第10回明治丸シンポジウムが2011年7月18日(月)13時から16時15分まで東京海洋大学海洋工学部越中島館講堂にて開催されました。開催日はここ数回、明治丸が東北北海道巡幸のあと明治丸に御乗船され横浜に到着した7月20日の海の記念日に関わる祝日に開かれています。

第10回という記念すべき回でもあり、6月には百周年記念資料館で開催された特別展「明治丸の航跡を求めて」を天皇后両陛下がご覧にいられたこともあり、さらに大学として明治丸ミュージアム事業をスタートさせたこともあわせて文字通り記念すべきシンポジウムが開催されました。昨年からはなわわていませバグパイプの演奏に始まり、学長、来賓そして明治丸海事ミュージアム館長のあいさつの後、基調講演として深川の誇りでもあり大変有名な作家の山本一力さんに「江戸幕末の深川」と題してお話していただきました。お話は江戸幕末の深川からジョン万次郎まで大変に幅広いお話を聞くことができました。ジョン万次郎については最近本が出版され、作家の海や船さらに生まれ育った土佐への情熱を熱く語ってくださいました。

そのあとは対談風に「みんなで考える明治丸とまちづくり」についてパネルディスカッションをしていただきました。大学前の清澄通りに架かる歩道橋を撤去して欲しいという意見に対して会場からも拍手が出たのが印象的でした。

パネルディスカッション(写真飯田)



「小笠原に明治丸が来た」(写真飯田)

休憩をはさんで後半は「小笠原と明治丸」というテーマで、世界遺産に登録された小笠原が日本の領土として認知されるにあたり重要な貢献をした明治丸について紹介し、さかなクンによる小笠原の自然やさかなについてのトークを聞くことができました。シンポジウム終了後に明治丸の見える職員会館で懇親会が行なわれ、賑やかなうちにも有意義な時間を過ごすことができました。

シンポジウム参加者数は大人373名、子供34名、合計407名と昨年のおぼほ倍のご参加をいただきました。また当日、明治丸海事ミュージアム事業に寄せられた寄付は19324円でした。

本会理事 庄司邦昭

水彩サロン

suisai salon

2011年春学期◎ 講師：清田秀雄さん(江東区土木部水辺と緑の課)

水彩都市をうたう江東区は、川や運河など水辺の大変多いところですが。そしてその水辺には生き物が多く生息しています。水辺の環境と生物について、行政の立場(江東区水辺と緑の課)で長年係わってこられた清田さんにお話をうかがいました。



中核地としての清澄庭園(写真清田)

なかった区内では1992年から淡水池と原っぱを主としたポケットエコスペースというピオトープを公園や学校に整備した結果、淡水の水辺も増えて、様々な生物が戻ってきました。南葛飾郡誌(1923)では水辺の植物が多く紹介されていますが、水辺の植物や動物も多く戻ってきています。一方、外来種の問題は深刻で、アメリカザリガニが侵入

した池では、生物多様性が大きく傷つけられ、ヤゴや水生植物がまったく見られなくなったピオトープもあります。

水辺には多くの野鳥が暮らしています。カモの仲間やサギの仲間、カモメの仲間、バン、カイツブリなどです。水辺環境のなかでも干潟がほとんどなくなったため、シギやチドリの生息場所がないのが現状です。江戸時代の観光名所としての洲崎のようにシギやチドリの姿を求めて人が集まるような場所が出来るとよいでしょう。江戸末期までは、コウノトリやガンが見られましたが、明治初期には何でも捕獲できる時代となり、大型の種類を中心に数が激減しました。その上、都市化が進む中で鳥類も減少しましたが、1970年代あたりから、都市鳥と呼ばれる都市に適応した種が多く現れます。キジバトやカルガモ、カワセミ、ムクドリ、ヒヨドリ、チョウゲンボウなどがそれに当たります。さらに平成に入ると、再自然化、ピオトープ整備、公園管理手法の変化や法の整備が進み、身近な自然が少しずつ戻ってきています。区ではエコロジカルネット

「江東区で暮らす水辺の生き物たち」

江東区の緑被率は平成17年現在16.7%あり、23区で11位に位置しています。空からながめると、鳥のように点にしてみどりや網目状の運河がつながっているのが特徴であることがわかります。このまちの原風景は、江戸名所図会(1834)に見るように江戸湾に面したまちとして、干潟やヨシ原が続く豊かな自然に恵まれた場所であったことがうかがえます。

区内の運河は、塩水と真水の混ざった汽水域で、東京湾とつながった隅田川や荒川の河口域の水辺環境にあります。江東区の親水公園づくりでは、汽水環境を



アキアカネ・仙台堀川(写真清田)

そのまま取り込むことを意識した整備が行われて、ハゼやボラ、スズキなどがどの親水公園でも身近に見られます。淡水域の水辺の少

2011年春学期

- 第1回(5月) 「知っておきたい水質の話」～東京水辺空間の魅力～
講師：中瀬勝義さん(エコライフコンサルタント)
- 第2回(6月) 「江東区 水辺の生き物」～魚・鳥・虫・植物～
講師：清田秀雄さん(江東区水辺と緑の課)
- 第3回(7月) 「和船が通る江東区の水辺」～和船の不思議～
講師：河合末二さん(和船友の会)



ワークの形成に向けた事業展開や都では砂浜や磯の整備も計画され、生物多様性の保全が進むことが期待されます。

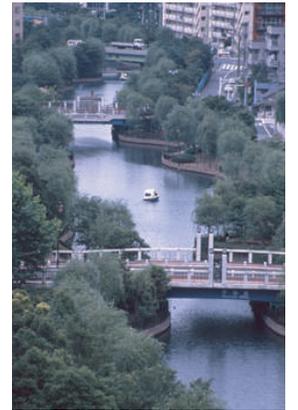
21世紀も10年を過ぎ、これからは少子高齢社会のなかで都市のライフスタイルも見直しながら、自然との共生を真剣に考えなければならない時代になりました。都市の便利な生活が自然豊かな環境に対して大きな負荷を与えていることは、今回の大震災で発生した原発事故でも明らかになりました。境界のない生き物の世界のように私たちも地球環境から地域環境まで、一緒に生きている地球の仲間とともに自然に対して謙虚に生きていく時代ではないでしょうか。



コガモ(写真清田)



ボラ・仙台堀川公園(写真清田)



親水公園(写真清田)

生物多様性チーム江東に参加して

NPO法人江東区の水辺に親しむ会 藤井 達生

昨年6月にえこっくる江東でお世話になっているNPOネイチャーリーダー江東の阿河さんより生物多様性チーム江東に誘われ、10月に名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で生物多様性交流フェアに出展し、江東区で市民団体と区が展開している活動について世界へ発信してきました。COP10では国内の様々な展示ブースがありそれぞれの活動を知ったことは良い経験になりました。

江東区は親水公園などアメリカザリガニやミシシippiaカミミガメ(緑ガメ)などの外来種で困っています。しかし一方で震災やその後の公害で自然の無い状態から水辺や緑を整備し多様な生物が生息している現状は奇跡と言われているそうです。まだ市民の関心が薄く、東京都や江東区の生物多様性のビジョンもこれからですが、江東区の水辺に親しむ会の日頃活動している特徴がこのチームで活かされるとよいと思っています。これからも江東区の水辺に親しむ会として生物多様性チーム江東の活動に係っていきたいと思います。



生物多様性チーム江東展示ブース(写真藤井)

このチームで活かされたいと思っています。これからも江東区の水辺に親しむ会として生物多様性チーム江東の活動に係っていきたいと思います。